

株式会社越野鋸工所

越野 巧さん

Koshino Takumi

Profile

能美市生まれ。小松大谷高等学校出身。高校卒業後、建設機械メーカーに3年間勤務。2019（平成31）年4月、越野鋸工所に入社。次代を担う建築板金職人として先輩のもとで研さんを重ねる。「完全にアウトドア派です」（越野さん）とのことで、趣味はスノーボードやジェットスキーなど。



株式会社越野鋸工所（能美市）

加賀エリアを中心に、工場やドラッグストアなどの大型施設の建築板金を数多く手がける。数々の成型加工機を取りそろえ、現場や要望に応じてオーダーメイドで対応できる点が同社の特色。【所在地】能美市寺井町ソ 151-3 【資本金】1000 万円 【代表】越野正 【従業員数】7 名



やるばしー!!



仕事のやりがい

大きな達成感!

建築板金は同じことを繰り返す仕事ではなく、臨機応変さが求められます。難しいですが、それ以上に大きな達成感が得られますよ。



毎日が勉強。日々の新しい経験が

学びであり、大きなやりがいです



越野鋸工所には、多種多様な加工機がそろっています。仕様の変更などにも柔軟に対応しています



職人の こだわり

板金ハサミ、インパクトドライバー、メジャーなど多彩な工具を手現場に向かいます

建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、建設機械メーカーに就職



◎3年後、(株)越野鋸工所へ入社

「異なる業界を経験したことで、建築板金の仕事の魅力をより強く実感できています」（越野さん）

大型施設を中心に幅広く 夏の作業は暑さとの闘い

建築板金職人の現場仕事は朝8時ごろから始まります。入社4年目、越野鋸工所（能美市）の越野巧さんは朝早くに出社し、社内に必要な板金道具や鉄板などをトラックに積み込み、北陸各地のさまざまな現場へと同僚とともに向かいます。「工場やドラッグストアといった大型施設をメインで手がけています」と越野さん。時には、80メートルを超える大きな屋根に10数人の職人と一緒に上り、キックボードのような運搬器具で鉄板を運びながら一気に施工することもあるそうです。

夏場になると屋根の上は40度以上に達します。強い日差しを受けながらの作業はどんなベテランであっても難敵で、小型扇風機のついた作業着を着用し、水分補給やこまめな休憩を取りながら作業にあたっています。空調のきいた屋内での仕事

とは異なる環境かもしれませんが、越野さんは「やりがいはとても大きい」ときっぱり。充実した表情でふき出る汗をぬぐいます。

多彩な技術を生かした ものづくりに達成感

越野さんにとってこの仕事の魅力は、ものづくりの世界にどっぷりと触れられることと言えるでしょう。同社で取り扱う屋根材や外壁材は10種類ほどあり、その形状や用途に合わせて使う板金ハサミも異なります。測り方や切り方なども施工方法などに応じて全く違い、現場では一度や二度聞いただけでは覚えられない専門用語が当たり前のように飛び交っています。

「いかに経験を積むかが大切です。僕なんてまだまだ。修業中の身ですよ」と頭をかく越野さん。それでも、新しい発見にあふれ、常に学び続けることが大切な建築板金職人の仕事の

楽しさは日々、感じている様子です。

もちろん、たくさんの職人が汗を流し、建物が完成した時の達成感も大きな魅力。「関わったお店や工場を見かけると、ついつい友達に自慢してしまいますね」と笑います。

コミュニケーションを大切に スキルアップにも注力

建築板金職人としてはスタートを切ったばかりの越野さん。仕事をする上で大切にしているのは、周囲とのコミュニケーションです。分からない点があれば先輩に積極的に質問するように心がけています。加えて、毎週火曜日には建設共同高等職業訓練校にも通っています。同じ建築板金に携わる同世代の学生が多く、同校の技能照査合格で2級建築板金技能士の学科試験が免除に。越野さんもクラスメイトと切磋琢磨しながら資格取得を目指しています。

これら一つひとつの経験がステップアップにつながっており、「技術も知識ももっとも身につけなければ。そして、地域の方々に信頼され、3代にわたって続く越野鋸工所を受け継いでいきたいと考えています」と越野さん。若き建築板金職人の成長ストーリーは始まったばかりです。

